

Davis, Kathy, 2008, "Intersectionality as Buzzword: A Sociology of Science Perspective on What Makes a Feminist Theory Successful," *Feminist Theory*, SAGE Publications, 9(1): 67-85.

キャシー・デイヴィス, 2008, 「流行語としてのインターセクショナリティ——科学社会学の視点から見たフェミニズム理論の成功のポイント」

※ () の数字はページ数を、[]内は原文を表す。

レジュメ作成者による紹介文

本稿は、フェミニズム理論において「インターセクショナリティ [intersectionality]」という概念が著しく普及した、その成功の理由を論じたものである。2022年7月14日時点の被引用数は3808で、インターセクショナリティを論じるに当たっての重要文献として位置づけられている。

■ 導入 (67-70)

- 本稿は、現代のフェミニズム理論において、なぜこれほどまでにインターセクショナリティという概念が流行したのか、その理由を考察する。
 - ・ インターセクショナリティとは、ジェンダー、人種、その他の差異のカテゴリー間の相互作用と、これらの相互作用がもたらす結果を指す。
 - ・ インターセクショナリティという用語は、黒人のフェミニスト法学者である Kimberlé Crenshaw (1989) によって作られたものである。
 - ✓ 彼女は、ジェンダーと人種が別々のカテゴリーとして扱われる結果、黒人女性がフェミニストと反人種主義者の両方の理論と政治において周縁化されてしまうという傾向に注意を促した。Crenshaw は、ジェンダーと人種の両方を考慮に入れ、それらの相互作用がいかにして黒人女性の経験の多次元性を形成しているかを示す必要があると主張した。
- Crenshaw の提起以来、インターセクショナリティは「女性学がこれまでになしとげた最も重要な貢献」(McCall 2005: 1771) と謳われるようになった。
 - 欧米ではインターセクショナリティに関する議論が活発に行われ、現在、フェミニスト雑誌やアンソロジーでは、インターセクショナリティの理論的複雑さを探求するための特集号が組まれている¹。

¹ 日本でもインターセクショナリティに関する議論は盛り上がりを見せており、英米圏の文献の翻訳や、シンポジウムが活発に行われている。2022年5月には、『現代思想』(青土社)においてインターセクショナリティに関する特集号が組まれた。

(<http://www.seidosha.co.jp/book/index.php?id=3675&status=published>)

- しかし、インターセクショナリティに対する認識をめぐる現状は混乱している。
 - ある者はインターセクショナリティを理論であるとし、ある者は概念あるいは発見的装置であるとし、またある者はフェミニスト分析を行うための読解戦略であるとみなしている。
 - また、インターセクショナリティは個人の経験の理解に限定されるべきなのか、それとも社会構造や文化的言説の特性としてとらえるべきなのかについて、統一的な見解は存在しない。
 - このように曖昧な理論が、なぜ多くの人々から現代のフェミニスト理論の最先端としてみなされるようになったのか、という疑問が生じる。
- 本稿では、インターセクショナリティの目覚ましい成功の現象と、それが生み出す不確実性について検討する。
 - 結論を先取りすると、「インターセクショナリティ」の曖昧さと開放性こそが、その成功の秘訣であると主張する。
 - そのために、科学社会学[sociology of science]からの洞察を援用する。科学社会学は、科学的活動のプロセス、理論とその読者との関係、そしてより一般的には、特定の理論が、世界の特定の側面を特定の方法で見ると読者をいかに説得することができるかについて関心を寄せている。
 - そのさい、Murray S. Davisの研究に着目する。彼は、社会学の偉大な理論 (Marx, Durkheim, Weber) を例として、広く流布された理論が、いかにして聴衆から面白いと思われるようになり、「古典」という由緒正しい地位を獲得するのかを分析している。
 - 以下、Davisの議論を参照しながら、インターセクショナリティの成功の理由を4つの点から説明する。

■成功の理由①：フェミニズムの懸念事項である「差異」に対処している (70-72)

- Murray S. Davis (1986) によれば、成功する社会理論の第一の特徴は、それが主要な聴衆の関心事に語りかけるものであるということである。
 - インターセクショナリティは、フェミニスト研究における最も中心的な理論的・規範的な懸念事項である女性間の差異を扱っている。
- インターセクショナリティは、現代のフェミニスト思想のなかで最も重要な二つの系統をまとめたもので、それぞれの系統は異なる方法で差異の問題に取り組んできた。
 - 第一の系統は、人種、階級、ジェンダーが、女性のアイデンティティ、経験、社会進出のための闘争に及ぼす影響を理解することに専念してきた。特に、白人中産階級中心的なフェミニスト理論のなかで、貧しい女性や有色人種の女性が疎外され

ていることを問題視してきた。インターセクショナリティは、人種、階級、ジェンダーのカテゴリーがどのように絡み合い、相互に構成しているかを探求し、人種がどのように「ジェンダー化」され、ジェンダーがどのように「人種化」され、両者が社会階級の継続と変容にどのように結びついているかといった問いに対処すると期待された。

- ・ 第二の系統は、ポスト構造主義の理論的視座に触発されたフェミニスト理論家たちによって担われ、西洋哲学と科学の近代主義的パラダイムに内在する普遍主義を脱構築することを目指してきた。インターセクショナリティは、複数の、そして移り変わるアイデンティティを概念化するポスト構造主義のプロジェクトにうまく適合していた。
- ・ このように差異と多様性の問題は、人種、階級、ジェンダーの相互作用を探求する政治的プロジェクト (第一の系統) にとっても、ポスト構造主義的フェミニスト理論の脱構築的プロジェクト (第二の系統) にとっても重要であった。
- ・ さらにインターセクショナリティは、差異と多様性に関する「根本的で広範囲にわたる懸念」に対処するだけでなく、すべての女性の懸念を解消することができる理論を生み出すという、旧来のフェミニストの理想を維持できるような方法をとる。
 - ・ インターセクショナリティは、あらゆる社会的実践、個人あるいは集団の経験、構造的配置、そして文化的構成を理解し分析するために有用な、普遍的な適用性を約束するものである。すなわち、フェミニストの理論や分析を行うための新たな存在意義を提供している。
 - ・ したがって、インターセクショナリティの成功は、少なくとも部分的には、差異に注目することでフェミニスト理論が「時代遅れ」や「不要」になることはないという暗黙の保証に起因している。それどころか、インターセクショナリティは、なすべき重要な仕事がまだ残っていること、そして幸運なことに私たち全員がそれをなすべき人たちであることを示唆している。

■成功の理由②：旧来の理論に「新たなひねり[novel twist]」を加えている (72-74)

- ・ 成功する社会理論の第二の特徴は、古い問題に新たなひねりを加えていることである。
 - ・ Davis (1971) によれば、社会理論は、「想定外を肯定しつつ、想定内を否定する」ことに成功するからこそ、繁栄するのである。成功した理論は、それまで信じていたことに異論を唱えたり、疑問を投げかけたりすることで、聴衆の注意を引く。そして、聴衆がそれまで想像もしなかったような方法で、ありえないような出来事同士を予想外の形で結びつけるのである。

- インターセクショナリティは、フェミニスト研究において古くから存在する女性間の差異の問題に対処するものであると同時に、新たなひねりを加えている。それは、性差別、階級、人種差別の影響に関するフェミニスト理論 (第一の系統) と、ポスト構造主義的フェミニズム理論 (第二の系統) の間に新しいつながりをもたらし、以前には考えられなかったような方法で両者を結びつけたのである。
 - 人種・階級・ジェンダーに関するフェミニズム理論とポスト構造主義的フェミニズム理論は多くの点で共通していたが、理論的・方法論的な相容れない点もあった。
 - ポスト構造主義的フェミニストにとって、ジェンダーを本質主義的に捉える認識が主要な批判対象であった。彼女たちの関心は、ジェンダーが他の差異カテゴリーとの相互作用によってどのように形成されるかということよりも、規範的思考 (= ジェンダーを本質主義的に捉える考え方) を完全に放棄する方法を見出すことにあった。
 - 対照的に、人種・階級・ジェンダーに関するフェミニズム理論家は、ポスト構造主義的フェミニズム理論が有色人女性の経験における差異のカテゴリーの物質的影響に十分な注意を払っていないとして批判した。また、ポスト構造主義的思考に浸透している政治的相対主義を警戒し、アイデンティティ・ポリティクス的重要性を指摘した。
- インターセクショナリティは、人種、階級、ジェンダーに関するフェミニズム理論とポスト構造主義的フェミニズム理論の間の相容れなさを克服する予期せぬ方法を提供する。
 - すなわちインターセクショナリティは、ジェンダー／人種／階級のカテゴリーがもたらす社会的・物質的帰結を可視化するという政治的プロジェクトを担うと同時に、カテゴリーを解体し、権力のダイナミックで矛盾した働きを採求するというポスト構造主義のプロジェクトに適合した方法論を採用した (Brah and Phoenix, 2004: 82)。
 - このようにインターセクショナリティは、フェミニスト理論における「接合点」を提供したのである (Lykke 2005)。

■成功の理由③：ゼネラリストと専門家の関心を共に満たしている (74-76)

- 成功する社会理論の第三の特徴は、ゼネラリストと専門家間のギャップを埋めるために、幅広い聴衆にアピールしなければならないということである。
 - すなわち、ゼネラリストを惹きつけるに足る一見簡単に把握できる有名な概念と、専門家を惹きつけるに足る概念の複雑さを含む必要がある (Davis 1986: 295)。
- インターセクショナリティは、フェミニストのゼネラリストと専門家の両方にアピー

ルすることに成功している。

- ・ インターセクショナリティは、ゼネラリストの関心を容易に引きつけることができる流行語の要素を備えている。この言葉は、フェミニスト雑誌のあらゆるテーマの論文のタイトルに頻繁に登場し、著者の規範的コミットメントを表現するためのキャッチーで便利な方法を提供している。
- ✓ インターセクショナリティに関連する交差点のイメージは、ほぼあらゆる文脈に適用可能であり、特定の人物のアイデンティティや特定の社会的実践や場所において、差異がどのように交差しているかを視覚化する有用な方法を提供しているように思われる。
- ・ 一方、フェミニズム研究者の中でも理論専門家にとって、インターセクショナリティには多くの魅力がある。たとえば、どのカテゴリーをインターセクショナルな分析に含めるべきか (Lutz 2002) といった問題や、インターセクショナリティをどのような用途で用いるべきか (脆弱性や排除を明らかにするために展開されるべきなのか、それとも資源、エンパワーメントの源として検討されるべきなのか) などについて議論が交わされている。

■成功の理由④：曖昧さと不完全さを有する (76-77)

- 成功する理論の第四の特徴は、逆説的ではあるが、本質的に曖昧であり、明らかに不完全であることである。
 - ・ Davis (1986) は、理論内の不整合や矛盾に関する意見の相違を「崩壊段階」の始まりと見なした Thomas Kuhn (1962) とは異なり、不整合や欠落を、そもそも理論を有名にするものの一部であるとみなしている。
- 概念としてのインターセクショナリティは、間違いなく、曖昧でオープンエンドなものである。
 - ・ フェミニストの理論家たちは、この概念がどのように定義されるべきか、そしてどのように使われるべきかについて、数え切れないほどの議論を行ってきた。
 - ・ インターセクショナリティは明確な定義や具体的なパラメーターがないため、ほとんどあらゆる場面で活用することができる。
 - ・ 新しい交差[intersection]が生まれるたびに、新しいつながりが生まれ、以前は隠れていた排除が明るみに出てくる。インターセクショナリティは、自分自身の盲点を問直し、それをさらなる批判的分析のための分析資源に変えるための無限の機会を提供する。
 - ・ ようするに、インターセクショナリティはその曖昧さと開放性によって、より包括的で再帰的な批判的洞察をもたらすのだ。

■ インターセクショナリティの成功を評価する (77-79)

- 本稿では、インターセクショナリティという曖昧な概念が、なぜ現代のフェミニズム理論のなかでこれほどまでに成功したのかという問題を提起した。私は、交差性の成功は、その弱点（曖昧さや不完全さ）が、その成功を可能にしたと論じてきた。
 - 一方で、インターセクショナリティの可能性を最大限に発揮するためには、定義や明確に区分されたパラメーター、そしてどのように、どこで、いつ適用されるべきかに関する研究者間の混乱を排除するような方法論が必要となる。
- Judith Butler と Joan Scott (1992) が指摘するように、フェミニズム理論は「分析、批判、そして政治的介入を生み出し、フェミニズムが制約を受けてきたいくつかの行き詰まりを超える道を指し示す政治的想像力を開く」必要がある。
 - 彼女らの見解では、「優れた[good]」フェミニスト理論は、混乱を一度で終わらせるものではなく、分裂と不平等の多重性に注意を払い、批判的に分析することを可能にするものである。それは批評と介入のための空間を開くと同時に、私たち自身の理論的事業の範囲と限界について再帰的になることを可能にしてくれる理論である。
 - インターセクショナリティは、首尾一貫していて、包括的な「優れた理論」ではないかもしれないが、Butler と Scott が述べたような意味での「優れた」フェミニスト理論の一例である。